

令和 7 年度

(2025 年)

事業計画

社会福祉法人

あじさいの家

令和7年度 事業計画 目次

1、あじさいの家 基本理念	
1)目的	1
2)運営方針	1
3)重点項目	1
2、日課	1
3、運営組織図及び担当	2
4、年間行事計画	3
5、利用者及び職員概況一覧	5
6、業務内容及び活動内容	
●運営	7
〈総務部〉	
◎広報	7
◎施設管理	7
◎防災管理	7
◎車両管理	7
〈支援部〉	
◎行事	7
◎交流	7
◎実習	8
◎安全・防災	8
◎医務・健康	8
◎研修	8
〈事務部〉	
◎経理・事務	8
【山郷重度障害者生活支援センターあじさいの家】	
《生活介護》	
◎活動	9
◎人形劇	9
《日中一時支援》	9
《短期入所》	9
【ヘルパーステーション・みっと・あじさいの家】	
《居宅介護》	9
《重度訪問介護》	9
《移動支援》	9

1、あじさいの家 基本理念

1)目的

一人ひとりが日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら、安心して地域生活を送ることができるよう支援することを目的とする。

2)運営方針

- ・ 生きがいを持って、豊かに暮らすことができるように支援する。
- ・ 安全で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- ・ 一人ひとりの個性が発揮できるよう支援する。

3)重点項目

- ・ 一人ひとりの個性を尊重し、自己表現できる場や機会を設定する。
- ・ 一人ひとりの障がいの特性を的確に把握し、体調の変化には絶えず留意する。
- ・ 地域とのかかわりを大切にし、社会資源を有効に使ったり、地域に積極的に出かけて行くなど、いろいろな体験をすることで生活の幅を広げる。
- ・ 居宅生活が安心して送れるよう支援する。

2、日課

山郷重度障害者生活支援センター あじさいの家

8:30	職員打ち合わせ	14:00	午後の活動
8:40	送迎及び準備	15:15	片付け、帰宅準備
9:30	活動準備	15:45	帰りの会
10:00	朝の会	16:00	帰宅(送迎)
10:30	午前の活動	16:00	記録(清掃)
11:40	昼食準備	16:30	会議(活動準備)
12:00	昼食、休憩	17:30	帰宅

ヘルパーステーション・みっと・あじさいの家

・居宅介護

利用するなかまが必要とする時間に、必要な支援を家庭に出向いて行う。(身体介護)

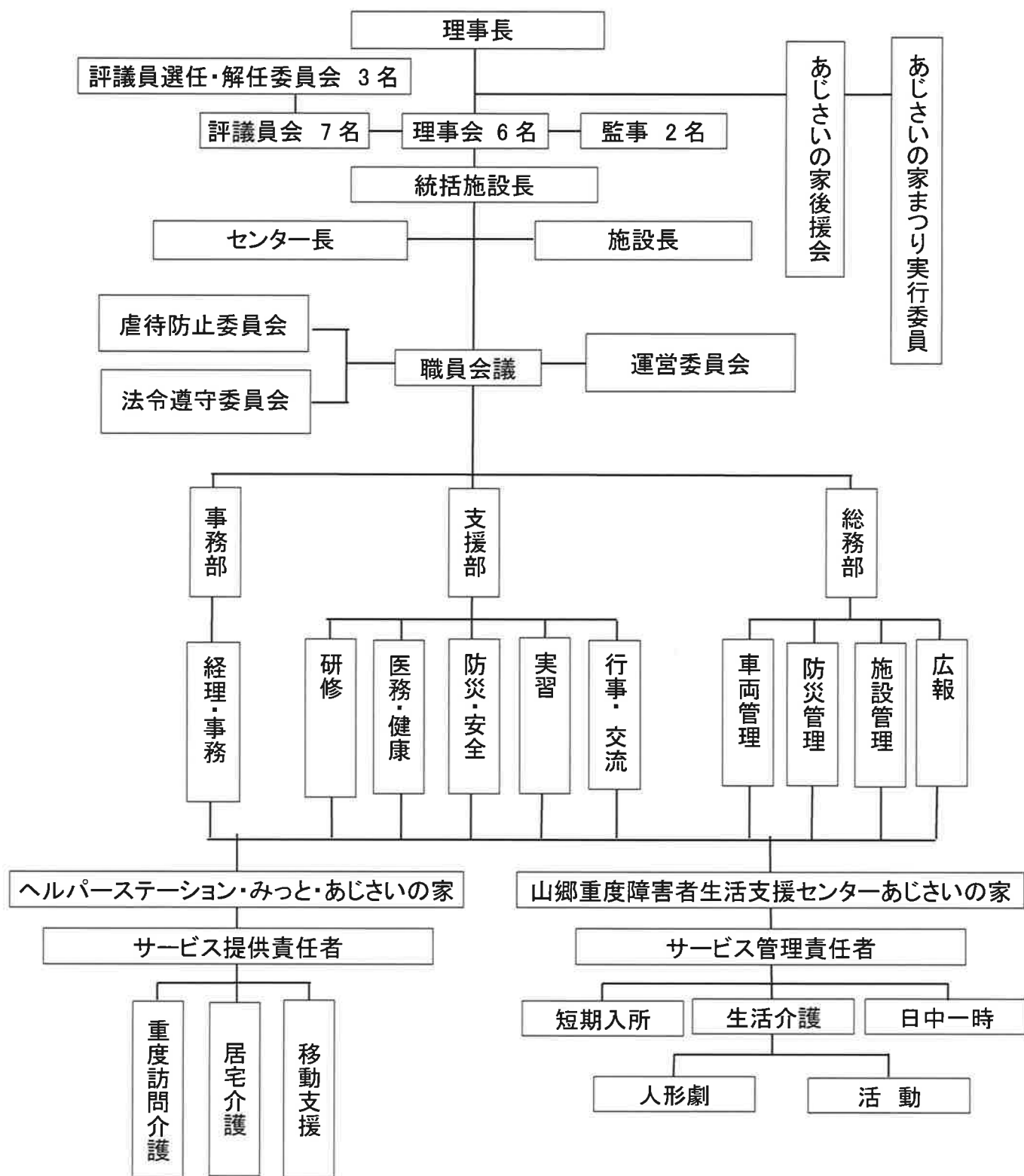
・重度訪問介護

自立した生活を送るために、様々な支援が必要な場合は、居住する場所で、必要な時間支援を行う。

・移動支援

現在、支援なし

3、運営組織図



4、年間行事計画

	法人関係	施設運営関係	行 事	交 流
4月	辞令交付(1) 入所式(1)	安全点検() 職員会議(8) ケース会議(8)		
5月	法人内監査(19)	安全点検(2) 職員会議(13) ケース会議(13)		
6月	あじさいの家まつり(1) 理事会 (6) 評議員選任・解任委員会(11) 評議員会 (20)	安全点検(上旬) 職員会議(10)	あじさいの家まつり(1) 誕生会(2回)	
7月		安全点検(上旬) 職員会議(8) ケース会議(8)	誕生会(2回) 七夕会	
8月		安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	誕生会(2回)	ジュニアアンサンブル
9月		安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	誕生会(2回)	松尾孝臣さん コンサート
10月	理事会(10) 評議員会(24)	安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議 避難訓練	ハロウィン	ロックフェス(11)
11月	其原子供会交流	安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	其原子供会交流 誕生会(1回)	地域交流会(1) いなべ市障がい者 スポーツ交流会(15) 其原子供会交流
12月		安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	誕生会(3回) クリスマス会 お楽しみ会(下旬)	メシエいなべ 人権フェスティバル
1月		安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	成人式 誕生会(3回) 初詣(下旬)	
2月		安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議	W成人式 節分(上旬)	
3月	理事会(13) 評議員会(27)	安全点検(上旬) 職員会議 ケース会議 避難訓練	誕生会(1回) ひな祭り(上旬) イルミネーション見学	響コンサート ひまわりハーモニカ

	実習	医務・健康	研修	人形劇
4月		体重測定		
5月		体重測定		
6月	北勢中学校職場体験(4,5) ユマニテク実習 (4~6,9~11) きらら学園実習(30~7/4)	体重測定 平山医師健康診断		
7月		体重測定		
8月		体重測定	施設内研修	
9月		体重測定		
10月	ユマニテク実習(9~24)	体重測定 なかま健康診断	虐待防止についての研修	
11月		体重測定 インフルエンザ予防注射		
12月		体重測定 職員健康診断		
1月		体重測定		エンゼル幼稚園(27)
2月		体重測定		
3月		体重測定		

5、利用者及び職員概況一覧

1、利用者の状況

令和7年(2025年)5月現在

(1)通所状況

利用者定員 20名 利用者実数 20名

(2)入退所状況

令和6年度内 退所者 男性 0名 女性 0名
令和7年度 新規利用者 男性 0名 女性 2名
(4月末退所予定者 男性2名 長期欠席者 男性1名)

(3)曜日別利用者数

曜日	月	火	水	木	金	1日平均	昨年度
男	8	9	10	12	10	9.8 人	10.8 人
女	5	6	5	5	6	5.4 人	4 人
計	13	15	15	17	16	15.2 人	14.8 人

(4)通所市町

市町	いなべ市	東員町	桑名市	四日市市	菰野町	計
男	5	3	4	0	1	13
女	3	1	1	2	0	7
計	8	4	5	2	1	20

(5)年齢別在所者数

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	平均年齢
男	1	2	6	3	1	13	35.3歳
女	4	0	1	1	1	7	31.7歳
計	5	2	7	4	2	20	33.3歳

(6)施設在所者数 平均在席年数 12年

在籍年数	2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	計
男	1	0	0	0	7	5	13
女	4	0	0	0	2	1	7
計	5	0	0	0	9	6	20

(7)障害手帳保有状況

	1種			2種	計
	1級	2級	3級		
男	11	1	1	0	13
女	6	0	1	0	7
計	17	1	2	0	20

(8)障害程度(療育手帳判定による)

	A 最重度	A 重度	A1	A2	計
男	6	1	3	3	13
女	1	2	3	0	6
計	7	3	6	3	19

(9)障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分3～5	区分 6
男	0	0	0	13
女	0	0	0	7
計	0	0	0	20

(10)日常生活状況

・移動 ※ 自力歩行、自助具を使用される方は、車椅子も併用している。

	自力歩行	車椅子使用	補助具移動	自力	半介助	全介助
男	2	13	1	0	2	11
女	2	7	0	0	2	5
計	4	20	1	0	3	17

・排泄

	自立	見守り	全介助
男	0	1	12
女	0	0	7
計	0	1	19

・食事

	自立	見守り	半介助	全介助
男	0	1	0	12
女	0	2	1	4
計	0	3	1	16

・食事形態 ※ 口からの摂取と経管栄養の併用有り

	普通食	普通食(一口)	刻み	ペースト(重複)	経管(胃瘻)	経管(鼻腔)
男	0	2	0	9(3)	2	0
女	0	4	0	1(1)	2	0
計	0	6	0	10(4)	3	0

・医療的ケア状況

	口腔内吸引	気・切吸引	胃瘻	鼻腔	導尿	尿路ストーマ
男	6	0	5	0	0	1
女	2	0	2	0	1	0
計	8	0	7	0	1	1

2、職員の状況

(1)就退職状況

令和7年度 新規採用者 男性 1名 女性 1名（正規職員1名、パート職員1名）
 令和6年度末 退職者 男性 0名 女性 1名（正規職員1名）

(2)職員状況

職名	正規職員		パート職員		業務委託職員		計
	男	女	男	女	男	女	
統括施設長			1				1
施設長※		1					1
センター長※		1					1
サビ・管※		施設長兼務					
サビ・提※		センター長兼務					
支援員	1	4	3	5			13
看護師		1		1			2
理学療法士				1			1
事務員				1			1
調理員				2			2
運転士			1		1		2
計	1	7	4	10	1	0	23

6、業務内容及び活動内容

●運営

施設運営全般に関わるすべての内容が、正確に機能するよう提案、管理、調整を行なう。なかまの生活については、施設内だけではなく生活全般において把握し、問題が起きた時には迅速に対応する。又、職員間の共通理解を図り、協力体制を整えておく。

ヘルパー事業の運営や活用、なかまの将来、施設の今後についても、検討、実施していく。

〈総務部〉

◎広報

広報『あじさい』や野外掲示板、Instagram などを通し、なかまの様子や活動を幅広く地域の方に知ってもらう。施設内掲示板も定期的に更新しなかまや家族、訪問者等が見て楽しんでもらえるような内容を工夫していきたい。

◎施設管理

施設建屋、施設敷地内のすべての備品、設備等を総括して管理する。いなべ市山郷重度障害者生活支援センターの家屋においては、安全・防災と連携し施設内の安全点検をもとに、破損箇所及び改善箇所等の早期発見及び対処に努める。

また、旧あじさいの家の建屋及び敷地内の現状を維持するよう努め、他の協力団体とも連携しながら管理を行う。

◎防災管理

施設内の防災システムを総括して管理する。年2回の設備点検は、開所当社から継続して行って点検業務を依頼している有限会社アシストにて行なう。

BCP(事業継続計画)に関しては、なかまの利用状況の変化等に対応できるよう見直していく。また、安全・防災と連携しながら、災害時には実際に稼働できるように、備品や環境の整備も引き続き行なっていく。

年2回実施する避難訓練も、災害時に対応できるように充実したものとする。

◎車両管理

施設保有の車両を管理し、運行の安全を確保する。車両の不具合の早期発見や、車検の時期も把握し、送迎業務の影響が最小限になるよう管理する。

昨年度より行なっている乗務する職員の事前のアルコールチェックは、引き続き行ない運行表に記録する。

乗務する職員一人ひとりが、安全第一で乗務、運行するように啓蒙する事も大切であるので、今年度も職員の安全意識の向上に努める。

〈支援部〉

◎行事・交流

昨年度までは「行事」「交流」と単独での係としていたが、今年度は協力して行うこととなった。

内容としては従来通り、「交流」はなかまの体調に留意しつつ、地域との関わりを深め、積極的に社会参加していく。

「行事」は四季を感じることが出来る内容のものを考えたり、外出についても社会の状況やなかまの体調を留意し前向きに検討する。誕生会については、今までのような誕生月に該当するなかまをお祝いする形から変え、誕生日当日になかまをお祝いし、よりなかま一人ひとりが主役になれるようにしていきたい。

◎実習

可能な限り積極的に受け入れていく。年齢や目的に応じた体験を行ない、実習生・なかま・職員それぞれが互いに刺激を受け、有意義な時間となるよう取り組んでいく。

◎安全・防災

今年度も引き続き年2回の避難訓練を行なう。

毎月1回行なっている施設内外の安全点検については、危険箇所や不具合箇所の早期発見に繋げるため継続していく。

また、BCP(事業継続計画)マニュアルについては見直しを行ない、更新をしていく。

◎医務・健康

今年度も毎月の体重測定、医療機関での健康診断を行ない、嘱託医による健康診察と予防接種も実施する。

また、家族や職員同士で、なかまの健康状態の情報を共有することで、なかま一人ひとりの体調を把握し、変化に対応できるように努める。

なかまが健康に楽しく生活できるよう支援する。

◎研修

なかま一人ひとりの特徴や障がいに対し基礎的な知識を深め、なかまが心身共に健康で過ごせるよう、職員全員で共通理解が出来るような研修を行なう。

また、施設外研修についても積極的に参加し、職員全体のスキルアップを図るためにフィードバックの時間を確保したい。

〈事務部〉

◎経理・事務

各帳簿整理と小口現金等の出納を管理し、施設会計及び法人本部会計等、すべての会計管理業務を行なう。資金の収支については、小口現金を含め、複数職員がチェックに関わり、透明化を図る。今年度も引き続き菊山会計事務所と連携し、明瞭で確実な業務に努める。

また、備品や消耗品等については、在庫量にも配慮し、日常の施設運営や活動に支障のないよう努める。活動や行事に必要な経費については、担当者が事前に起案書、もしくは物品購入伺を提出し、計画的な資金運用に努める。

【山郷重度障害者生活支援センターあじさいの家】

《生活介護》

◎活動

一人ひとりの表情を引き出し、心地良く、楽しい時間となるよう、様々な内容を提供する。また、なかまの要望も取り入れ幅広い活動を行なっていく。

◎人形劇

今年度も、なかまの感染予防対策の確保ができることを前提とした上で活動を行なっていく。現段階で公演の依頼もあり、なかま一人ひとりが主役として社会参加出来る場としたい。

《日中一時支援》

主に生活介護の時間外や休日利用について対応していく。また、緊急時には迅速に対応し、いつでも安心して利用できるように体制を整えておく。

《短期入所》

今年度も、基本定員は2名、24時間、365日利用可能とする。特に緊急時には、安心して利用できる場として体制を整えておく。また、迅速な対応が行なえるよう、個々の事情を把握し、職員同士や家族との連携をしっかりとっていく。

【ヘルパーステーション・みっと・あじさいの家】

《居宅介護》

今後居宅介護の必要性は増し、希望者も増えることを考慮した上で、家庭への負担軽減も考え、一人でも多く希望に添えられるように職員配置を見直していく。日々安心してなかまが登所し、生活出来るように繋げていきたい。

《重度訪問介護》

シェアハウスの生活は、なかまも職員もようやく慣れてきたところではあるが、今後も様々な状況に直面すると思われる。その為にも、日々の職員同士の連携をより一層深め、不安なく安心して生活できるように努める。また、今後のあじさいの家のなかまに繋げていきたい。

《移動支援》

現在のところ利用はないが、今後必要に応じて各家庭と連絡を取り合い、話し合いを重ねながらニーズがあれば計画を立て、実施に向けていく。